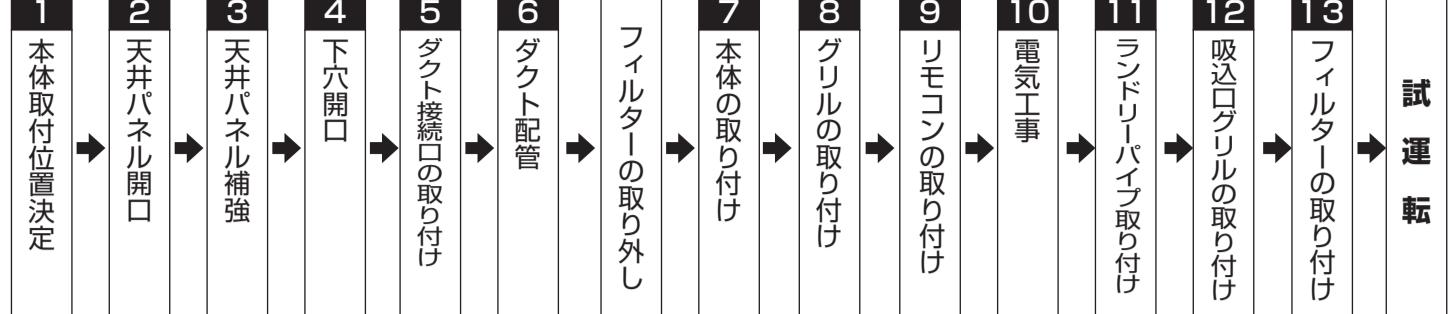


設置方法

設置手順

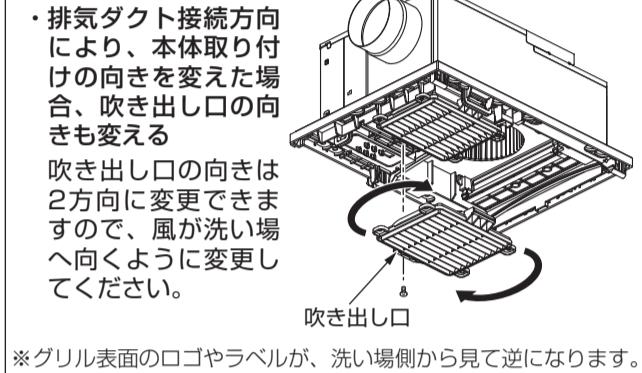


天井に埋め込み部材が設置されている場合
天井開口および天井補強材が取り付けられている場合は、ここからの作業となります。

1. 本体取付位置決定（現場開口の場合）

- 右図の推奨位置を参考に本体取付位置を決める。
・本体は、天井の水平面に、吹き出入口が洗い場側に向くように取り付けてください。
・天井裏に梁などがある場合は、本体の方向・位置を変えて設置してください。
ただし、推奨位置に設置したときに比べて衣類乾燥時間が長くなったり、暖房性能が悪くなる場合があります。

お願い

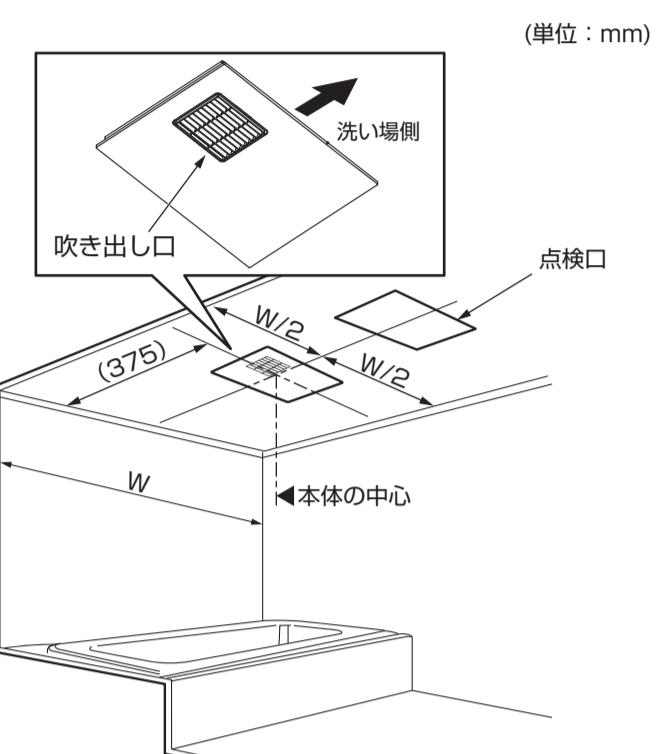


- 本体取付位置が決まったら、ランドリーパイプの位置を確認する。
照明や収納パネルが障害となる場合があります。

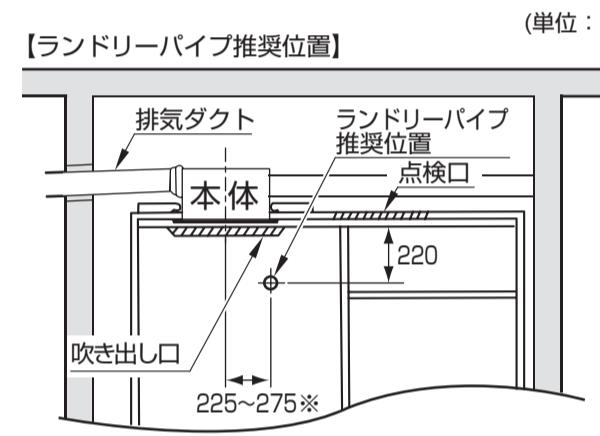
- 当社ユニットバス設置の場合は、ユニットバス付属の組立要領書記載の所定位置に取り付ける
・乾燥性能を優先する場合は本体取付位置を、ランドリーパイプ位置にあわせて変更してください。
・ランドリーパイプは、浴室の天井が高いときや照明などがあり、取り合いが悪い場合は、推奨位置より下方向へずらして取り付ける
ただし、乾燥時間がやや長くなる場合があります。

△ 注意

- 禁止
ランドリーパイプは、推奨位置より本体に近づけて設置しない
ランドリーパイプが過熱し、やけどや衣類が変色する原因になります。



(単位:mm)



(単位:mm)

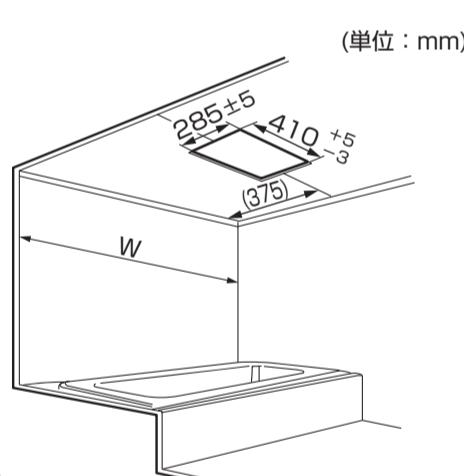
2. 天井パネル開口（現場開口の場合）

- 天井パネルの推奨位置に285×410の開口を行う。
(開口誤差範囲 285±5, 410±5)
- 天井材が化粧鋼板の場合、切口には防錆材を塗布する。

お願い

- 天井組み立て後に天井開口や下穴加工を行う場合は、浴室へ切りくずなどを残さないことに
ささなどの原因になります。

※埋め込み部材を設置する場合は、埋め込み部材専用の設置説明書をご覧ください。

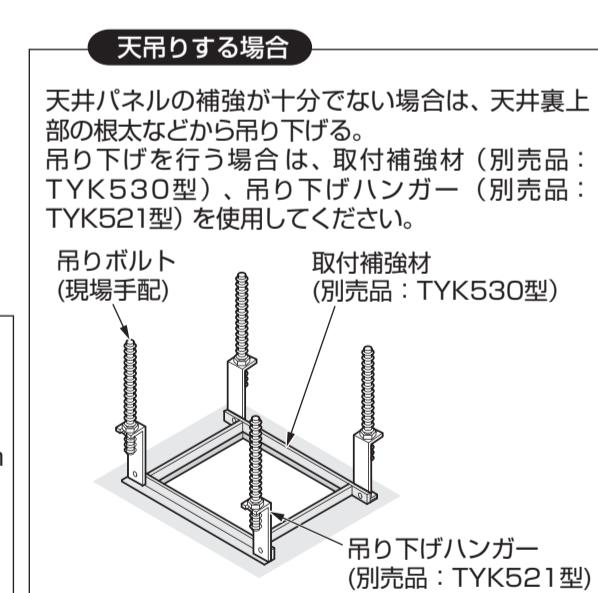
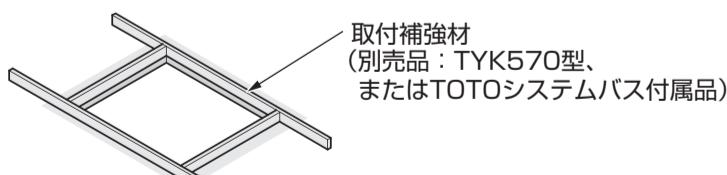


3. 天井パネル補強（現場開口の場合）

製品質量 (TYB3011GA型/3011AA型: 6.2Kg、
TYB3021GA型/3021AA型: 6.4Kg、TYB3012GA型: 6.7Kg、
TYB3022GA型: 6.8Kg) に耐え
るよに天井パネルを補強する。
取付補強材（別売品：TYK570型、またはTOTOシステム
バス付属品）の使用をおすすめします。
取付補強材（別売品：TYK570型、またはTOTOシステム
バス付属品）を使用する場合は、接着剤（現場手配）で天井
に接着します。

お願い

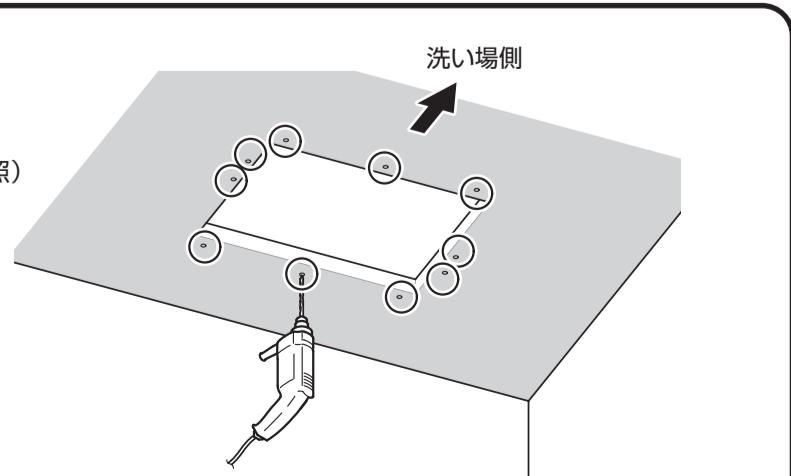
- 取付補強材は天井材を含めて45mm以下にする
(推奨品TYK570型使用の場合は、
天井厚さ25mmまでとなります)
これを超えるとダクトが取り付け
できないため、商品を取り付け
できません。
※付属の本体取付ねじはφ4×40です。



4. 下穴開口

下穴寸法および開口寸数を確認のうえ、
下穴位置をけがき、下穴を開ける (φ3.5)。
(⑥ 外形寸法の「天井開口寸法・下穴寸法」を参照)

- 本体固定用 (8ヶ所)
- ダクト接続口取付用 (1室換気タイプ: 1ヶ所
2室換気タイプ: 2ヶ所)



- お願い
・洗い場側の向きを確認する。

5. ダクト接続口の取り付け

ダクト接続口をねじ止めする。
(ワッシャーは使用しません)

・排気ダクト接続口と吸気ダクト接続口
(2室換気タイプの場合) は形状が異
なります。刻印を確認してください。
間違えて取り付けた場合は、本体が入りません。

△ 注意

- 必ず実行
必ず本商品付属のダクト接続口を使用する
天井裏に蒸気などが漏れて建材が変質し、損傷の原因になります。

<現場開口の場合>

排気ダクト接続口

吸気ダクト接続口

洗い場側

←現場開口の場合

<埋め込み部材が設置されている場合>

天井裏補強材のねじ穴に合わせて、ダクト接続口をねじ止めする。

排気ダクト接続口

吸気ダクト接続口

洗い場側

←埋め込み部材が設置されている場合

6. ダクト配管

お願い 既設ダクトを流用する場合は、必ずダクト内部のほこりや異物を取り除いてください。

- ダクト接続の前に、ダクト内部に異物がないかを確認する。
※風量低下や異常音発生の原因になります。

- アルミフレキ管などのダクトを接続し、アルミテープで風漏れのないようにする。(呼び径φ100)

※排気ダクト接続長さは、目安として直管20m相当以内にしてください

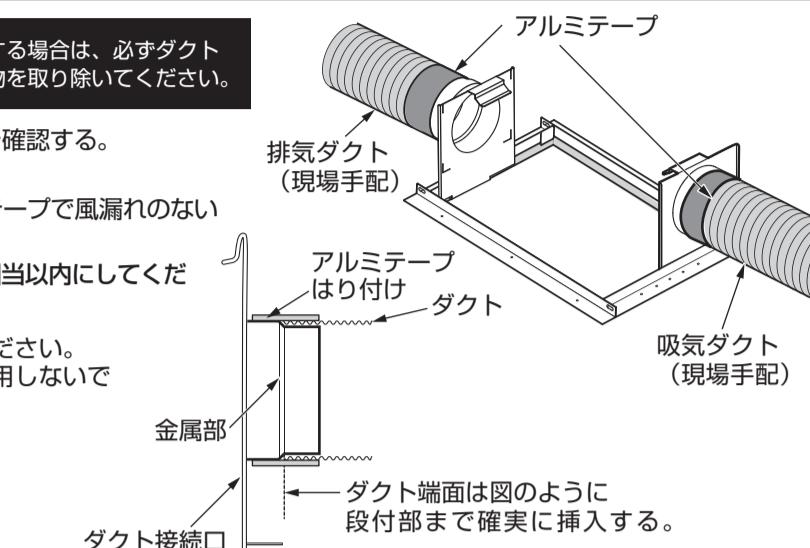
※排気、吸気の配管を間違わないようしてください。
また、吸気は洗面所専用です。トイレには使用しないでください。

ダクトは右図のように

- ダクト接続口に確実に挿入する
- アルミテープにて確実に固定する

お願い

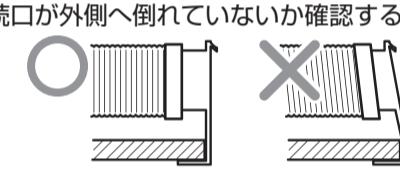
- ダクトの接続に接着剤は使用しないでください。
メンテナンス時に、ダクトが外れなくなります。
- ダクトの接続にねじを使用しないでください。
故障の原因になります。
- 配管時にダクトに力がかからないようにする。
- 配管は天井裏のスラブより吊るし、排気ダクト接続口に力が加わらないようにする。
- Y管接続の場合は、排気出口近くで接続する。
また、逆流しないように逆止弁などを付ける。
- 排気ダクト接続口は屋外に向けて1/100以上の傾斜をつける。
結露水が逆流する原因になります。
- 次のようなダクト設置はしない
風量低下や異常音発生の原因になります。



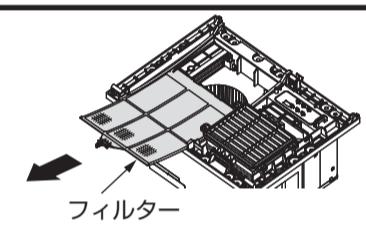
7. 本体の取り付け

お願い 作業に入る前に、本体に取り付けてある
フィルターを取り外してください。

- ダクト接続口が外側へ倒れていないか確認する。

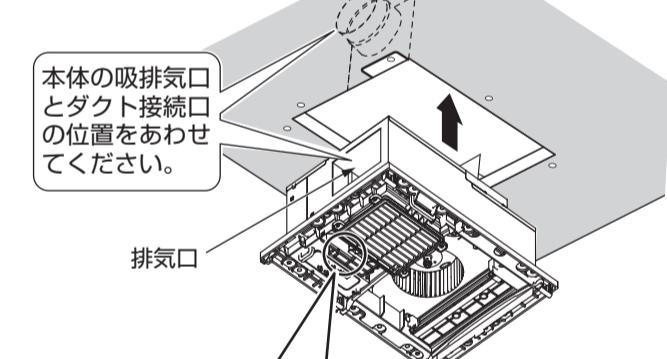


ダクト接続口に無理な力がかからていれば、配管を修正し、
ダクト接続口を真っすぐにしてください。

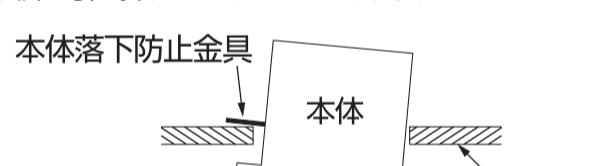


7. 本体の取り付けのつづき

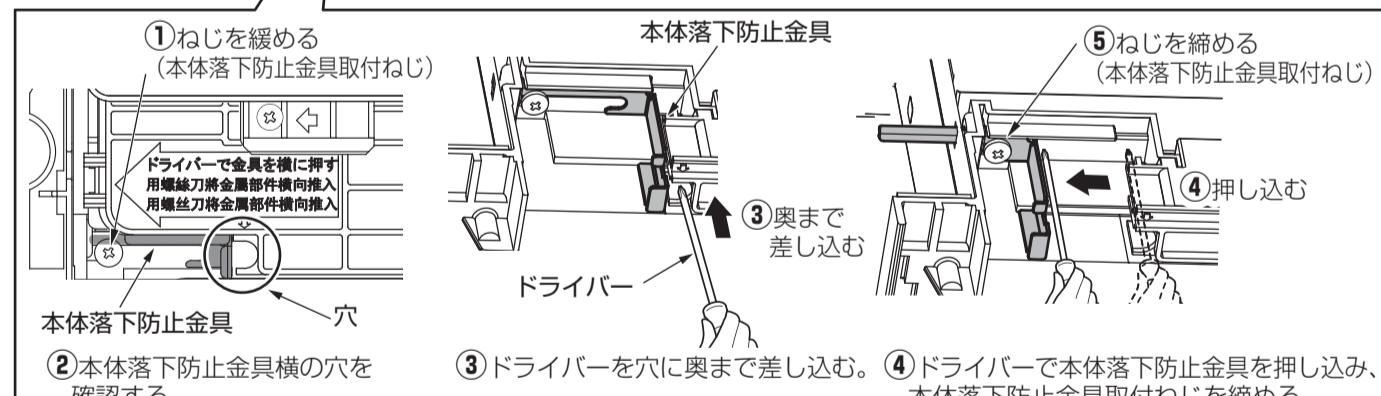
- 本体落下防止金具取付けねじを緩める。(下図参照)
- 本体を挿入し、ドライバーを使って本体落下防止金具を押し出す。



本体落下防止金具を完全に押し出し、
ねじで締めつけると、一時的に本体を天井に引っ掛けおくことができます。



- コードの挟み込みに注意しながら天井面に水平に挿入する
- 本体の向きに注意



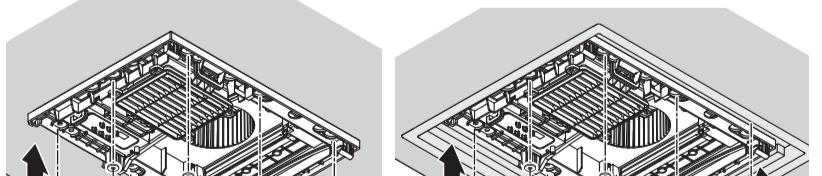
押し込まないとグリルが取り付けません。

△ 注意
 禁止
本体を天井に引っ掛けたまま、放置しない
本体が落してけがをしたり、破損する原因になります。

- 本体をワッシャー (8枚)、本体取付ねじ (φ4×40、8本) で固定する。

<現場開口の場合>

天井裏補強材のねじ穴に合わせて、本体を固定する。



お願い

- インパクトドライバーは絶対に使用しない
締め過ぎにより本体取付ねじの破損の原因になります。
- 電動ドライバーを使用する場合は締付トルク3N·m以下のものを使用してください。

△ 注意
 必ず実行
取付ねじは最後まで締め込む
本体が落してけがをしたり、破損する原因になります。

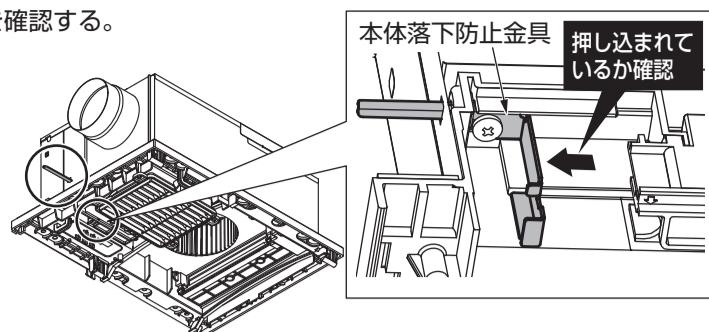
- ダクト接続口と本体が確実に接続されていることを点検口から見て確認する。

裏面の「8. グリルの取り付け」につづく

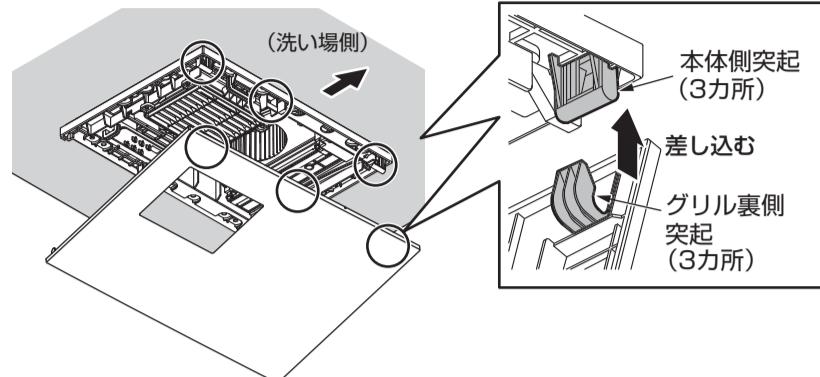
8. グリルの取り付け

(1) 本体落下防止金具が押し込まれていることを確認する。

本体落下防止金具が押し込まれていないとグリルの取り付けができません。

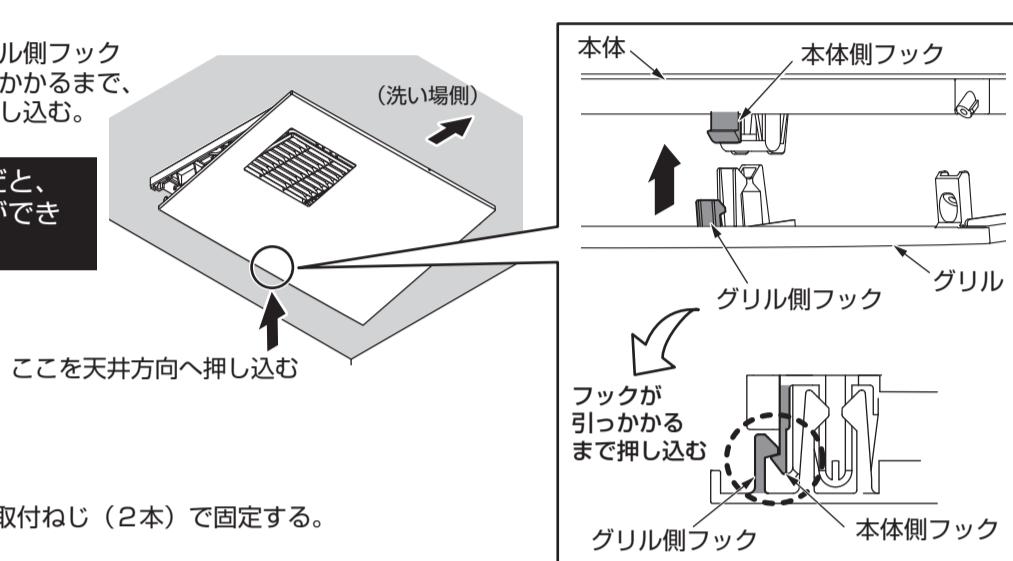


(2) 右図○印部のグリル裏側突起(3力所)を本体側突起(3力所)に差し込む。



(3) 右図○印部裏側のグリル側フックが本体側フックに引っかかるまで、グリルを天井方向へ押し込む。

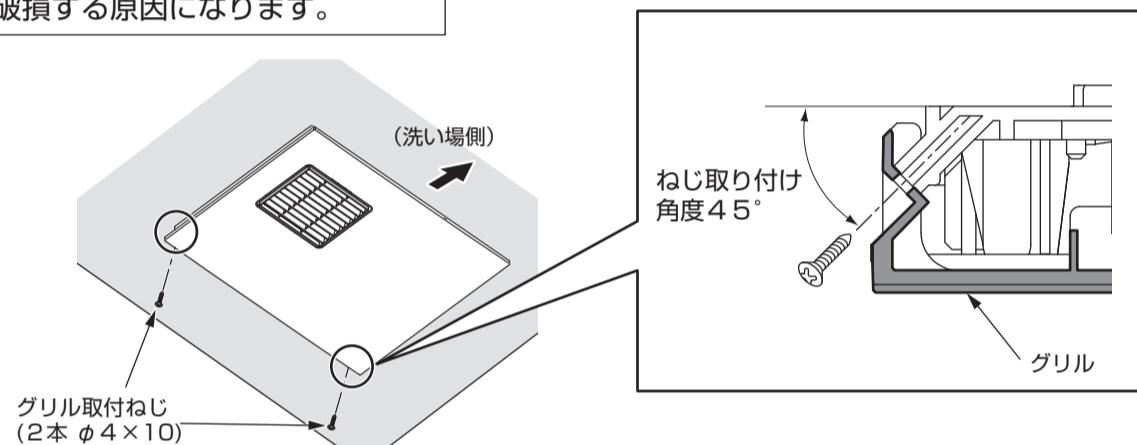
押し込みが不十分だと、グリルのねじ固定できません。



(4) グリルと本体をグリル取付ねじ(2本)で固定する。

お願い

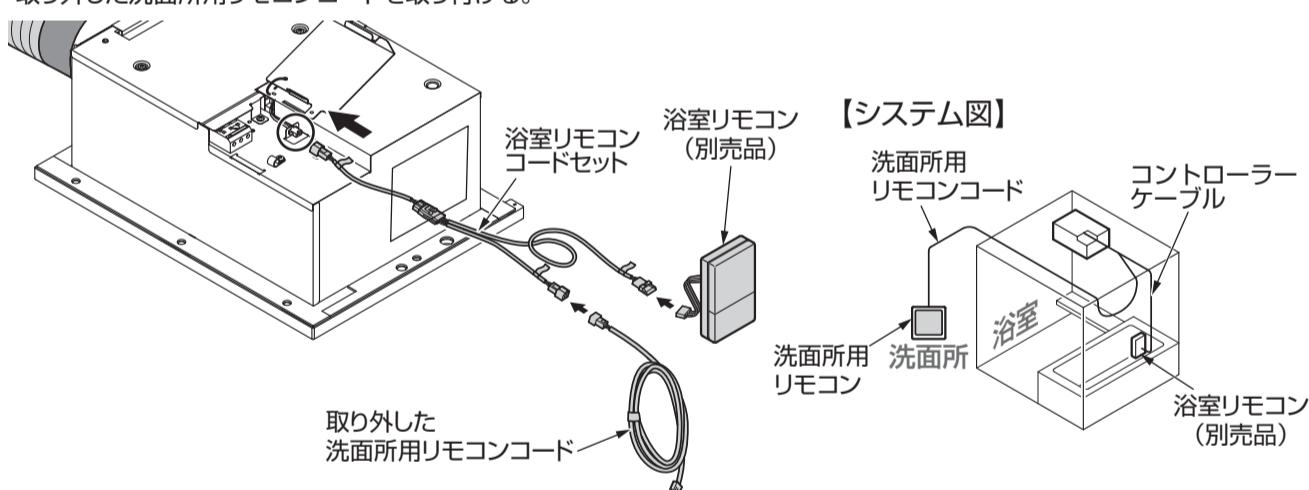
- ・グリルの取り付けは必ず手締めで行う
電動ドライバーなどで強く締め付けると
部品が破損する原因になります。



9. リモコン(洗面所用)の取り付け

浴室リモコン(別売品)を取り付ける場合

本体付属のリモコンコードをいったん取り外し、浴室リモコンコードセットを浴室換気暖房乾燥機本体に取り付け、取り外した洗面所用リモコンコードを取り付ける。



浴室リモコン(別売品)の他の設置は、浴室リモコン(別売品)の設置説明書をご覧ください。

(1) リモコン取付位置の壁に開口を行う。

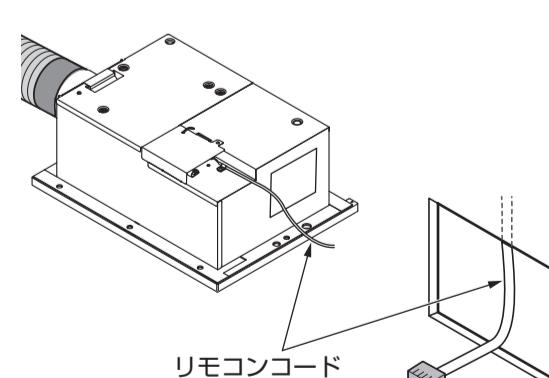
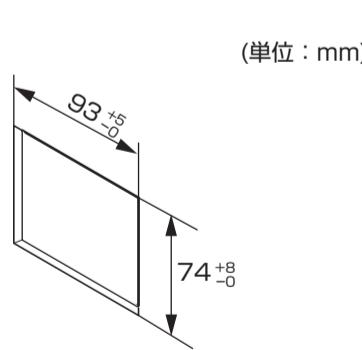
壁開口寸法···H74×W93 (開口誤差範囲H74^{±5}, W93^{±5})
※2連用スイッチボックス(JIS C 8336)も利用できます。
ただし、スイッチボックスとリモコンケースとの取付用ねじは現場手配してください。

商品に付属しているリモコンコードの長さは5mです。

※リモコンコードの長さが足りない場合は、10mのリモコンコード(別売品:TYHK007型)をご使用ください。

リモコン内部へ石膏ボードの粉などの侵入がないよう、十分注意してください。

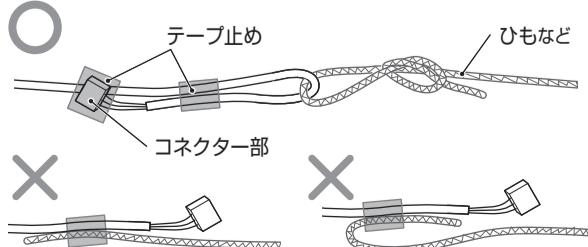
(2) リモコンコードを本体からリモコン取付位置まで配線する。
※リモコンコードを配管に通すときは、φ15以上の配管に通してください。



リモコンコード引き回し時の注意

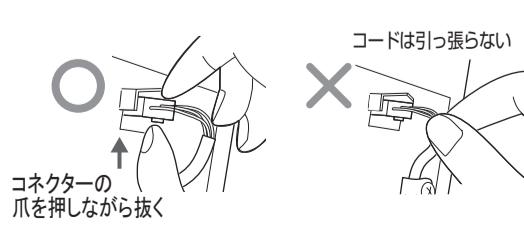
コネクター部を保護すること

断線やコネクター破損のおそれがあります。



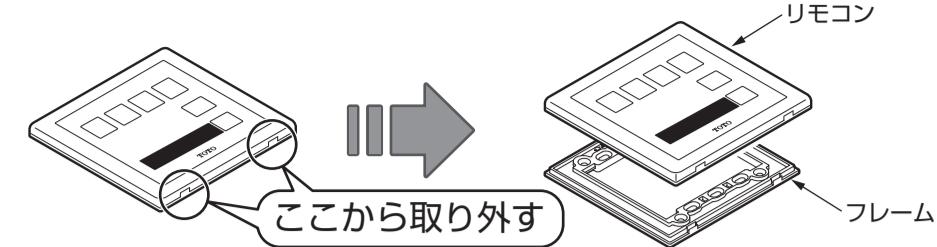
抜き差し注意

コネクターを必ず持ち行うこと

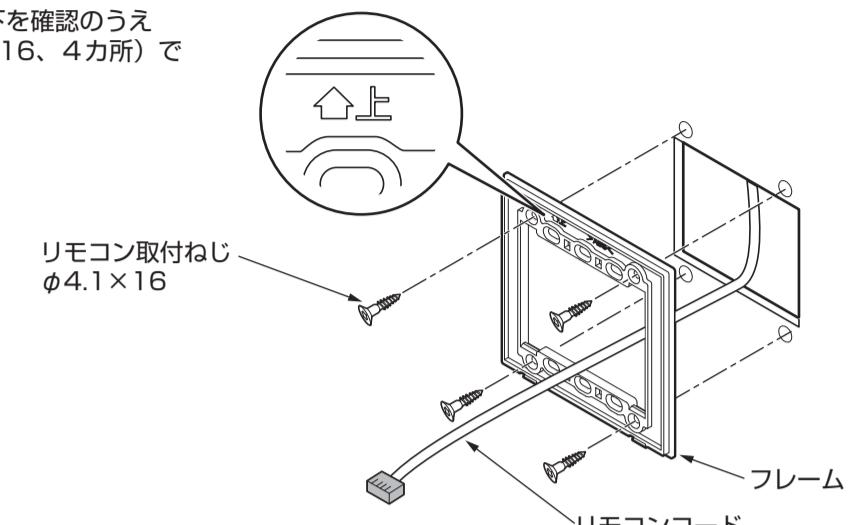


9. リモコン(洗面所用)の取り付けのつづき

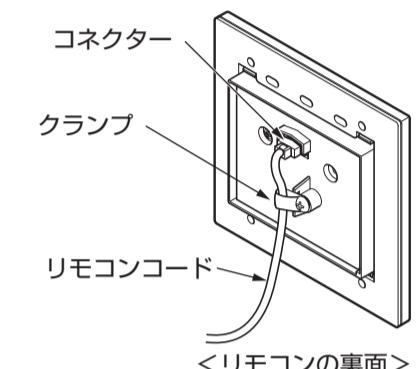
(3) リモコンからフレームを取り外す。



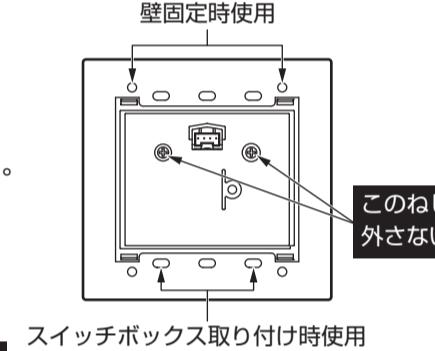
(4) フレームにリモコンコードを通し、上下を確認のうえ、フレームをリモコン取付ねじ(Φ4.1×16、4力所)で壁に固定する。



(5) リモコンのコネクターにリモコンコードを接続し、リモコンに付属のクランプでリモコンコードを固定する。



(6) リモコンを「カチッ」と音がするまでフレームにはめ込む。



お願い

- ・リモコンを確実に取り付ける 動作不良の原因になります。
- ・フレームを壁固定するときは、必ず手締めで行うこと
電動ドライバーなどで強く締め付けると破損の原因になります。
- ・リモコンは、浴室内には取り付けない 故障の原因になります。
- ・リモコンコードの断線に注意する
- ・浴室リモコン(別売品)の場合は、リモコンコードの接続方法が異なります。
詳しくは浴室リモコン(別売品)の設置説明書をご覧ください。
- ・リモコン裏に付いているねじは外さない
- ・スイッチボックス等に取り付ける場合は、ねじを締めすぎない
フレームが変形してリモコンがうまく入らなくなったり、フレームと壁の
すき間が大きくなる原因になります。

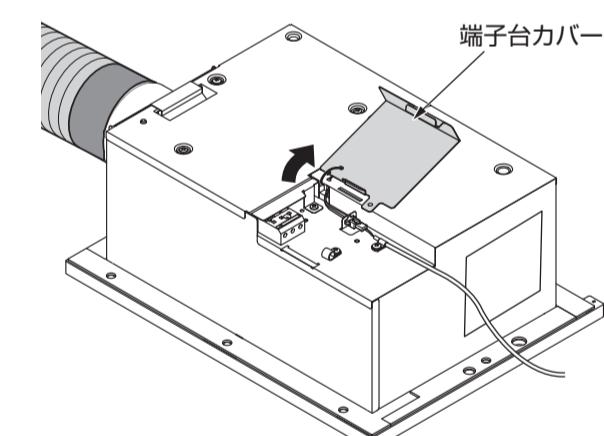
フレームと壁のすき間が大きくなり過ぎたときは、締め付け量を調整してください。

10. 電気工事

お願い

・TYB3011GA型/TYB3012GA型/TYB3011AA型の電源はAC100Vを接続する
AC100V仕様商品に200Vを印加すると基板が破損します。

(1) 端子台カバーを外す。



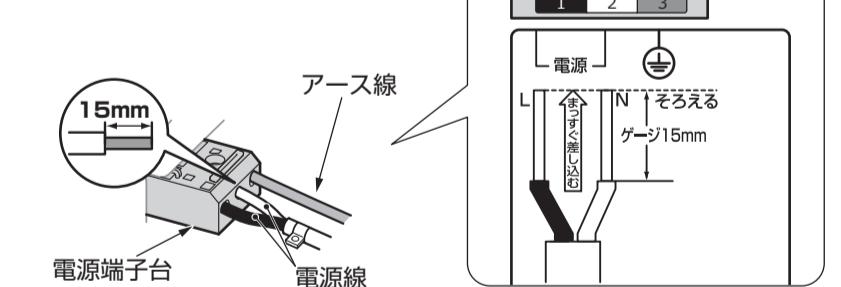
(2) 電源線(VVFケーブルφ2mm)およびアース線(φ1.6mm~φ2mm)を電源端子台に接続する。

重要 電源端子台への接続について

・各々の芯線が真っすぐ15mm出ている状態に加工のうえで、
端子穴に芯線を“グッ”と奥まで確実に差し込む。

確実に差し込む

接続後、電源線の芯線が右図の
ように差し込まれていることを
再度、目視で確認する

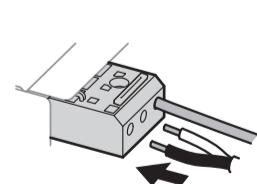


・電源線の芯線2本が均一
になるように加工する。
(端子台の手前で均一になる
ように加工してください。)

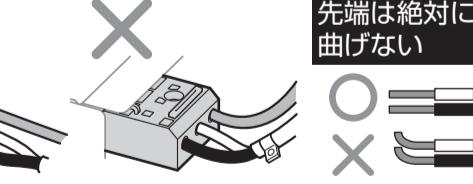
端面を揃える



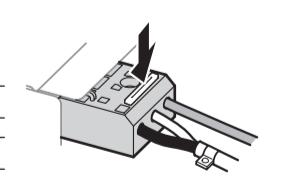
・端子台に芯線を
奥まで真っすぐ
挿入する。



・端子台の近くで大きく曲げない。
先端が十分に差し込まれない場合
があります。



・電源線を外すときは、
下記↓部を電工マイ
ナスドライバーで強く
押してください。



警告

電源線(VVFケーブル)は、先端をそろえ端子台に確実に差し込む
差し込みが不十分だと火災の原因になります。
また、端子台内部の発熱により端子台が故障し、切タイマーランプの「1」と「4」が点滅表示され、
エラーとなる場合があります。
その場合は電源ブレーカーを切って、修理を依頼してください。
電源線はφ2mmの単線(VVFケーブル)を使用し、確実に接続する
より線は使用しない
不適切な接続をすると過熱し、火災の原因になります。

・専用のブレーカー(20A)を取り付けてください。また漏電遮断器を取り付けてください。
・専用の漏電遮断器を取り付ける場合、15mA、動作時間0.1秒の高感度タイプのものをおおすすめします。
・電源線(VVFケーブルφ2mm)は、点検が行えるように、本体取付位置より3mほどゆとりをもたせて配線
してください。
(電源線を束ねたまま配線しない。)
・アースはD種接地工事を行ってください。

